

マツダ(株)マツダ R&D センター横浜

事業所敷地面積約 35,000 平方メートル 緑地面積約 54,000 平方メートル
調査地は中庭のビオトープと、フォーラム学生会が 2017 年に新しく設置した仮設ビオトープ池。



お話を伺った方 大川洋巳さん 岡康治さん=M インタビュアー ヤブヤンマ=Y

※ヤブヤンマ……調査 15 年目で初登場の大型ヤブヤンマ！青い複眼と肢のストライプ模様が特徴的。ヤブヤンマの登場は 2017 年のトピックの 1 つ。

「生物多様性日本アワード」受賞のインパクト

Y こんにちは。15 年目で初めて臨海部に登場してみなさんに喜んでもらったヤブヤンマです。

M ようこそマツダのビオトープにいらっしゃいました。2017 年は「生物多様性日本アワード」優秀賞も受賞し、嬉しいニュースが続きました。

Y 受賞は結構インパクトがあったということでしょうか？

M そうですね。まず、環境とエネルギーの未来展「エコプロ 2017」の当社ブース内にある社会貢献への取り組みを紹介するコーナーで、活動のこと、受賞のことを紹介してもらえたので、社内でもですが外部の方にも活動のことを知っていただけました。

社内では、受賞前のことですが当社の「環境月間」の際に、全社放送される社長メッセージの中で生物多様性保全の取り組みとして R&D センターのビオトープのことが紹介されたんですよ。

受賞そしてフォーラムの活動については社内の SNS (ツナガリネット) や広報冊子「マツダ短信」にも掲載されました。活動について発信できる機会が増え、繰り返し紹介されることで多くの部門にフォーラムの活動が浸透してきていると実感しています。

本社・広島 naturally の豊かさを京浜臨海地区に

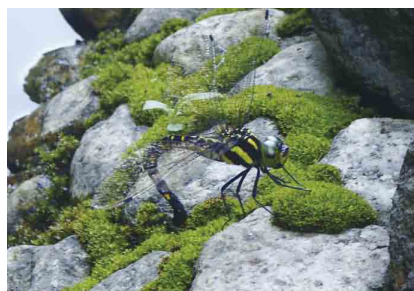
Y 本社のある広島は自然の豊かな場所だそうですね。



M はい、私たちマツダは、瀬戸内の豊かな自然の中で生まれたといえます。走行テストを行う「三次自動車試験場」では、一般の方に公開していないことで結果的に自然が残る形になり、専門家の調査の結果、希少生物の生息が確認されました。トンボもなんと 45 種も記録されているんですよ。

2004 年からフォーラムに参加し、2009 年に中庭の人工池をビオトープにしているのは、人工的な環境の京浜臨海地区にも生きものの輪を広げたいという思いがあったことです。

森は長い時間をかけないと作れませんが、トンボなど水辺の生きものたちは小さな池があればすぐやってきてくれます。取り組んだ成果がすぐ現れるので、自分たちの



ヤブヤンマ

取り組みによってこの地にたくさんの生きものが飛び交う様子を見ることができると思い、取り組んでいます。

京浜臨海部同士のつながりもできた



活動を通じて企業同士のつながりもできたとか？

M それは大いにあります。フォーラムの活動自体が産学官民の連携によっているので、企業だけではなく多様な方々と接することができます。アワード受賞によって、イオン環境財団の方とも交流できるようになりました。

Y トンボを通してのつながり、素晴らしいです。これからもよろしく願います。

